



渚滑っ子

学校HPコード



教育目標：人間性豊かな児童の育成

～気付き、築く子どもの育成～

令和6年5月23日発行

文責：校長 木村 智史

至誠を尽くす



この写真は、先日調理実習をした後の家庭科室の排水溝です。片付けを終えたあと、野菜くず、ごみが一つも落ちていませんでした。

私は、「準備」「整理整頓」「後片付け」に、その人の「柄」の一遍が見えると思っています。

「三國清三」(ミクニ キヨミ)というシェフをご存じでしょうか？この方の生き方が、今回のテーマ「至誠を尽くす」ことにつながっています。

三國シェフが二十歳の頃、北海道で有名な「札幌グランドホテル」で修行していました。

この時、三國は、「もっと自分を磨きたい。」という思いから、当時日本の最高峰のホテルであった、「帝国ホテル」に単身で修行に着きます。帝国ホテルは、世界の首脳が宿泊し、ホテルのレストランで食事をとります。

すなわち、帝国ホテルの食事は、日本のシェフの腕前が試されるだけでなく、各国の要人たちの社交場として、重要な役割があることを意味します。このレストランには、当時300名を超えるシェフがしのぎを削っていました。

北海道でも有名だった三國は、「さあ、自分の腕前を見せてやろう。」と意気揚々だったそうです。しかし、村上総料理長から命じられた仕事は…。

「鍋洗い」だったそう。

フライパンを振るどころか、その鍋を洗うことを命じられたのです。

三國はどうしたのでしょうか…。

ピカピカに磨いたそうです。

次の日も、その次の日も鍋洗いを命じられ、三國はフライパン、鍋の取手のネジを外して磨きました。これが2年間続いたそうです。

当時のことを三國はこう語っています。

「大切なのは、目の前の仕事を誰よりもしっかりこなすこと。鍋でも皿でも、誰よりも手早く、誰よりも綺麗に洗う。洗って、洗って、洗うものがなくなったら、厨房を見回して、誰か忙しそうにしている人を手伝う。」

そしてある日、村上総料理長から呼び出された三國は、

「君には、来月から、スイスの日本大使館公邸の料理長をやってもらおう。」

と告げられました。

これは大変な抜擢で、鍋洗いしかしていない、20歳の三國がそのような大役につくことを周囲のシェフは猛反対しました。

その時、村上総料理長は、こう言いました。

「鍋洗い一つ見れば、その人の人格が分かる。」

技術は人格の上に成り立つものだから、あいつだったら間違いない。」

「至誠を尽くす」とは、

『きわめて誠実なこと。まごころ。真心を尽くすこと。』

つまり、自分の人格形成のため、

「当たり前なこと、今の自分がすべきことに徹底し、継続的に取り組むこと」

だと、私は解釈しています。挨拶や整理整頓、ごみを拾う、楽な道だけを選ぶことなく、面倒だと思う行動を続けることが、人格を形成する1つだと考えます。



村上総料理長が言った、「技術は人格から成り立つ」という言葉を、渚滑小学校に重ねたとき、たくさんのことが見えてきます。

「玄関の靴をそろえる」「挨拶と返事を徹底する」など、その人間の素地となる場面での振る舞いを大切にさせたいということです。

「整理」と「整頓」は違います

保護者の方と話をしていると、「うちの子、整理整頓が下手で…」と嘆いている方がいらっしゃいます。

でも、そもそも整理整頓の意味を理解していないために、完璧な行動を一度に求めてしまっていることがあります。

「整理」とは「いるものといらないものを分け、いらないものを捨てる」という意味があります。

「整頓」とは、「必要なものをいつでも誰でも取り出せるよう、秩序だてて配置すること」を言います。

学校のある場面でいうと、「机の中に教科書、ノートをしまう」ときに、時間割の順番通りにしまうことを「整頓」といい、その時に使わないものをかばんにしまうことを「整理」といいます。

もしこの時、「整理整頓しなさい。」という指示をしたのなら、混同した指示になり、何から動かしていいのか分からない子もいるのです。

「至誠を尽くす」ことを大切にしたいとき、指示や指導の言葉掛けも、大切にしたいものです。

6月の主な行事予定

- 3日(月) 全校朝会
- 12日(水) 運動会総練習(1~4校時)
- 14日(金) 前日準備(5,6年)
- 15日(土) 渚滑小中運動会
- 17日(月) 振替休業日
- 24日(月) 歯科検診
- 25日(火) 交通安全教室